

「業界の地位向上」目指し半世紀 創業者世代から第2世代へ11人のバトンリレー

関東コイルセンター工業会創立50周年



1代 関野貞吉 2代 新井吉三 3代 鈴木三三 4代 村山文雄 5代 鈴木正治 6代 藤澤滋 7代 新井吉三 8代 鈴木正士 9代 村山和雄 10代 西山寛 11代 藤澤滋

戦後世代へ35歳若返り

1967年10月の理山鋼材創業者、一時専断で7代・新井吉三が創業者を継いだ。創業者から第2世代へバトンリレーが移った。会の結成が1966年から30年を経た時点である。

東名阪に業界団体発足

東名阪に業界団体が発足した。これは、関東コイルセンター工業会が、日本経済の成長期に、製鉄メーカーが、スチール生産設備を相次ぎに更新し、業界規模が拡大したことに伴って、第1回の経営者懇談会が75年に開催されたことを受けて、東名阪に業界団体が発足した。

バブル崩壊、供給過剰に

その時々の景況は、バブル崩壊、供給過剰に陥っていた。1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、供給過剰を解消するために、生産調整を推進した。

設備過剰問題に言及

設備過剰問題に言及した。これは、1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、設備過剰を解消するために、生産調整を推進した。

緊急会見で「窮状」説明

緊急会見で「窮状」を説明した。これは、1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、設備過剰を解消するために、生産調整を推進した。

平成の「ミスター加工賃」

平成の「ミスター加工賃」として知られるようになった。これは、1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、設備過剰を解消するために、生産調整を推進した。

第3世代も頭角現す

第3世代も頭角を現すようになった。これは、1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、設備過剰を解消するために、生産調整を推進した。

理念掲げリーダーシップ発揮

理念を掲げ、リーダーシップを発揮した。これは、1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、設備過剰を解消するために、生産調整を推進した。

「設備過剰問題」に言及

設備過剰問題に言及した。これは、1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、設備過剰を解消するために、生産調整を推進した。

緊急会見で「窮状」説明

緊急会見で「窮状」を説明した。これは、1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、設備過剰を解消するために、生産調整を推進した。

平成の「ミスター加工賃」

平成の「ミスター加工賃」として知られるようになった。これは、1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、設備過剰を解消するために、生産調整を推進した。

第3世代も頭角現す

第3世代も頭角を現すようになった。これは、1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、設備過剰を解消するために、生産調整を推進した。

緊急会見で「窮状」説明

緊急会見で「窮状」を説明した。これは、1990年代前半、鋼材の供給が過剰になり、価格が暴落した。このため、業界団体は、設備過剰を解消するために、生産調整を推進した。

年	月	内容
1966	7月	関東コイルセンター工業会創立総会を開催（会員数29社）
67	11月	全国スチールセンター連合会発足
68	12月	関東コイルセンター工業会発足（会員数29社）
69	1月	理事長に鈴木三三氏（大和鋼材社長）が3代目会長に就任
72	11月	定時総会で村山文雄氏（村山鋼材社長）を4代目会長に選出（会員数42社）
73	10月	「関東コイルセンター工業会」に改称（会員数52社）
75	5月	第1回経営者懇談会を開催（以後、定期開催）
76	10月	鈴木正治氏（五十鈴スチール社長）が5代目会長に就任
79	6月	創立10周年記念総会を開催（会員数60社）
81	2月	鈴木正治氏が逝去し、藤澤滋氏（藤澤鋼材社長）が会長代行に就任
83	10月	定時総会で村山和雄氏（村山鋼材社長）を6代目会長に選出
84	3月	技術研究会を発足（以後、定期開催）
84	4月	工場見学会を開催。東京三洋電機、小室鋼材、群馬工業、五十鈴鋼材、本田鋼材を訪問
86	7月	創立20周年記念総会を開催（会員数68社）
89	10月	第2回経営者懇談会を開催。この時点で会員数86社に
91	11月	創立25周年記念総会を開催（以後、定期開催）
92	10月	定時総会で新井吉三氏（マテックス社長）を7代目会長に選出
94	9月	事務局を新井吉三氏の4階に移転
95	7月	第4回経営者懇談会でEDM（バロット）モジュール実験成果報告会を行う
96	9月	創立30周年記念総会をホテル・オークラ別荘で開催（会員数93社）
97	10月	吉田秀孝事務局長が定年退職し、新事務局長に井上八郎氏
98	12月	新井吉三氏が逝去し、理事で鈴木正士氏が8代目会長に就任
99	2月	大和五十鈴とアマガの両見学会を実施し、アマガのハネルディスクカンパニーに参加
2001	2月	「関東コイルセンター」の関東地区別開会（組合主催）を実施
02	4月	全労連、厚労省との効果的活用を促進した打ち合わせがスタート
02	11月	鉄鋼産業界6団体に事務所移転。全労連、厚労省との打ち合わせがスタート
03	1月	流通5団体（全労連、東経連、厚労省、産協、CC）と、CC工業会、関東CC工業会、全国の新年賀状交換会を虎ノ門パストラルで実施（以後、定期開催）
03	5月	井上事務局長が逝去し、新事務局長に鈴木三三氏
04	9月	定時総会で村山和雄氏（村山鋼材社長）が9代目会長に就任
06	9月	初の「小集団活動発表交流会」実施（以後、定期開催）
08	10月	創立40周年記念パーティをマンダリン・オリエンタル東京で開催（会員数44社）
08	11月	女性の為の講演と製鉄所見学。講演（以後、計5回開催）
10	4月	村山三郎副会長（厚澤鋼材）の逝去
11	6月	定時総会で西山寛氏（西山鋼材社長）が10代目会長に就任
11	7月	東日本大震災が発生し、会員企業にも被災
12	4月	臨時の経営者懇談会を開催し、震災の影響について懸念
12	7月	災害対策本部を設置
12	12月	第11回経営者懇談会を開催し、今年を以て懇談会を終了
12	9月	第7回小集団活動発表交流会開催（この会から全国組合と共催）
13	11月	新井吉三副会長（マテックス）の逝去
13	3月	「製鉄所見学と安全体感講習会」実施（以後、定期開催）
14	9月	設備保全スキルアップセミナー（組合主催）を開催
14	9月	藤澤明元副会長（藤澤鋼材）の逝去
15	7月	西山寛氏が逝去し、藤澤滋氏が11代目会長に就任
16	7月	定時総会で藤澤滋氏（藤澤鋼材社長）が11代目会長に就任
17	2月	創立50周年記念パーティを日本工業倶楽部で開催（会員数37社）

流一と面との共催事業に発展（前述）させたのは、西山会長の任期中の功績のひとつ。また、女性のための講演と製鉄所見学が、一巡したあと、「製鉄所見学と安全体感講習会」を新たに実施した。震災が被災、停止した設備を再稼働させられた高麗球線が、高麗球線センターに、高麗球線センターとして立ち上がった。その結果、西山会長である。

16日は藤澤滋会長の満64歳の誕生日だ。生来の明るさと人気が備えた「業界のムードメーカー」は、CCの発展・地位向上への思いを強く持ち、その実現を「加工賃正」によって成し遂げようとする。平成の「ミスター加工賃」である。